

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月11日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 明豊ファシリティワークス株式会社

【英訳名】 Meiho Facility Works Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 坂 田 明

【本店の所在の場所】 東京都千代田区平河町二丁目7番9号

【電話番号】 03(5211)0066

【事務連絡者氏名】 常務取締役 社長室長兼管理本部長 大 島 和 男

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区平河町二丁目7番9号

【電話番号】 03(5211)0066

【事務連絡者氏名】 常務取締役 社長室長兼管理本部長 大 島 和 男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第34期 第2四半期累計期間	第35期 第2四半期累計期間	第34期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	3,599,584	3,665,017	8,245,324
経常利益	(千円)	203,837	147,245	385,306
四半期(当期)純利益	(千円)	126,678	93,852	222,893
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	534,192	534,192	534,192
発行済株式総数	(千株)	12,725	12,725	12,725
純資産額	(千円)	1,721,707	1,849,367	1,817,837
総資産額	(千円)	3,396,206	3,915,476	3,768,861
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	11.32	8.37	19.91
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	11.32	8.29	19.84
1株当たり配当額	(円)			6.00
自己資本比率	(%)	50.1	46.7	47.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	7,605	193,229	201,830
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	13,309	9,038	33,472
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	219,194	225,322	180,413
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,329,039	1,114,292	1,541,883

回次		第34期 第2四半期会計期間	第35期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	7.50	5.17

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していません。  
 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社がないため該当事項はありません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済・金融対策の効果により企業業績が改善し、国内景気は引き続き緩やかな回復基調が見られました。一方で原油や原材料価格の上昇や、消費税増税による消費低迷が懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

建設業界では、公共投資が堅調に推移する中で、人材不足や資材の高騰等を背景とした入札不調・不落が相次いで報道されました。一方、建設工事の適正な施工及び品質の確保と、その担い手の確保を目的として、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第56号）」が、国土交通省より公布、施行されるなどCMサービス（コンストラクション・マネジメント）を含めた多様な入札・契約方式の活用方法が、公共案件においても検討されるようになりました。

このような中で当社は、「顧客側に立つプロ」として、徹底したコスト削減策のみならず、プロジェクト立上げ支援から始まり、プロジェクト期間中一貫して顧客本位のソリューションをご提案することで、お客様の逸早い意思決定を支援しました。当社サービスが「明豊のCM（コンストラクション・マネジメント）」として認知され、拡大した結果、社内で管理する粗利益ベースでの当第2四半期累計期間における受注高は過去最高を記録しました。

これらの結果、当第2四半期累計期間における決算は、売上高は3,665百万円（前年同四半期3,599百万円）に増加しました。当第2四半期累計期間におけるフィーベースでの出来高に相当する売上総利益は705百万円（前年同四半期703百万円）と増えましたが、引き合い状況を踏まえた増員等によって販売費及び一般管理費が増加し営業利益は174百万円（前年同四半期244百万円）、経常利益は147百万円（前年同四半期203百万円）、四半期純利益は93百万円（前年同四半期126百万円）に減少しました。

事業のセグメント別の状況は以下のとおりです。

#### オフィス事業

日本国内における事業再編の動きは継続しており、事業所移転などの需要が継続しております。

当社のCM手法によるPM（プロジェクト・マネジメント）サービスは、移転の可否やワークスタイルの方向性を検討する構想段階およびビルの選定から引越しまでワンストップで支援することが可能であります。グループ企業の統廃合、地方拠点の集約化、またオフィスビル新築同時入居など難易度の高い事業所移転に高い優位性を発揮しました。

当第2四半期累計期間のオフィス事業においては、ピュアCM（工事原価を含まないフィーのみの契約型CM）が増加し、アットリスクCM（工事原価を含む請負契約型CM）の出来高が減少したため、売上高は2,244百万円（前年同四半期2,271百万円）となりました。

## CM事業

労務費や資材の高騰などにより建築費予算超過に悩まれた顧客からの引き合いの他、建設を伴う新規事業のプロジェクト化等、多くの提案機会を得ることができました。建物の新築・リニューアルのみならず、バブル期に建設された建物の基幹設備老朽化に関連した空調・電気設備の更新について、民間企業だけでなく公共機関からも幅広く受注することができました。

公共分野では、平成26年4月に大阪府立大学が一般公募した「大阪府立大学の学舎整備事業のCM事業者募集」にりそな銀行と共同で応募し、5年連続で受注することが出来ました。また5月には、千葉県市原市の防災庁舎建設、9月には大阪府立環境農林水産総合研究所におけるCM業務を受注することができました。

当第2四半期累計期間のCM事業においては、ピュアCM（工事原価を含まないフィーのみの契約型CM）が増加し、アットリスクCM（工事原価を含む請負契約型CM）の出来高が減少したため、売上高は826百万円（前年同四半期936百万円）と減少しました。

## CREM事業

大企業向けを中心に、保有資産の最適化をサポートするCREM（コーポレート・リアルエステート・マネジメント）事業については、当社技術者集団による透明なプロセス（CM手法）が、多拠点施設の新築・改修だけでなく基幹設備の維持管理にも優位性を発揮致しました。工事コスト管理や、保有資産のデータベース化による資産情報の集中管理など顧客ニーズに合わせて事業性を高めることのできる当社の専門性およびマネジメント能力が着実に顧客の評価を獲得出来ており、金融機関および複数のオフィスビル、商業施設を保有する大企業から継続してご依頼頂き、受注は堅調に推移致しました。

当第2四半期累計期間のCREM事業においては、売上高593百万円（前年同四半期391百万円）と増加しました。

## ・環境・省エネ対応について

各企業様の省エネや環境に対する意識は依然として高く、当社のプロが持つ高い技術的専門性によって、顧客の環境目的達成を支援しています。環境に配慮した最新の技術・手法を活用し、建物の全ライフサイクルを通じて環境負荷低減の設計及びオフィスや保有資産の中長期的な維持管理計画を立案し（ライフサイクルマネジメント）、コスト削減と環境負荷低減を行うなど、当社独自のマネジメント手法にて最大の投資効果を得るべく支援しております。

当社は都心を離れた遠隔地にゼロエネルギーを実現する大型オフィス建物の基本計画・調達・施工監理業務についても遂行しました。今後も環境対応事業範囲の強化と需要拡大に対応すべく、社内において既にCASBEE建築評価員資格保有者22名、および米国グリーンビルディング協会公認LEED AP資格保有者1名が在籍しております（平成26年9月末現在）。

## ・海外PM会社との業務提携

当社は、平成22年6月に国際的な建設コンサルタント及びPM（プロジェクト・マネジメント）会社として長い歴史と実績のあるSweett Group Plc（本社英国）と、建設プロジェクトの分野において、全世界を対象とした戦略的提携をしております。両社はこの提携を通じて、顧客ニーズのグローバル化に対応すると共に、互いのネットワークとノウハウを活用し合うことで、新たなビジネスチャンスを創出しております。

Sweett Group Plcより紹介を受けた英国アミューズメント企業の日本進出プロジェクトにおけるPM業務につきましては、複数の拠点での業務が完了し、引き続き新たな業務を遂行しています。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて、4.7%増加し、3,551百万円となりました。これは、受取手形・完成工事未収入金が524百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前事業年度末に比べて、3.3%減少し、363百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ3.9%増加し、3,915百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて、8.9%増加し、1,652百万円となりました。これは、工事未払金が390百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前事業年度末に比べて、4.5%減少し、413百万円となりました。これは、長期借入金が36百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ5.9%増加し、2,066百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べて、1.7%増加し、1,849百万円となりました。これは、利益剰余金が26百万円増加したことなどによります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前第2四半期累計期間に比べ214百万円減少し、1,114百万円となりました。

当第2四半期累計期間による各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、193百万円となりました（前年同四半期は7百万円の取得）。

支出の主な内訳は、売上債権の増加額524百万円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、9百万円となりました（前年同四半期は13百万円の支出）。

支出の主な内訳は、その他の支出6百万円であります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、225百万円となりました（前年同四半期は219百万円の支出）。

支出の主な内訳は、短期借入金の純増減額100百万円であります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,725,000	12,725,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	12,725,000	12,725,000		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成26年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使(旧商法に基づく新株引受権の行使を含む。)により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		12,725,000		534,192		340,514

## (6) 【大株主の状況】

(平成26年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社サカタホールディングス	東京都目黒区東が丘2-1-15	3,300	25.93
明豊ファシリティワークス株式会社	東京都千代田区平河町2-7-9	1,511	11.87
坂田 明	東京都目黒区	531	4.17
明豊従業員持株会	東京都千代田区平河町2-7-9	327	2.57
野村 勝朗	神奈川県川崎市麻生区	250	1.96
松村 孝一	東京都八王子市	200	1.57
坂田 紀美子	東京都目黒区	190	1.49
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	180	1.41
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	163	1.28
中山 高德	長野県佐久市	152	1.19
計		6,806	53.48

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,511,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,212,200	112,122	
単元未満株式	普通株式 1,300		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	12,725,000		
総株主の議決権			

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の「株式数」欄には証券保管振替機構名義の株式が400株、「議決権の数」欄に当該議決権の数4個がそれぞれ含まれております。

## 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 明豊ファシリティワークス 株式会社	東京都千代田区平河町 2 - 7 - 9	1,511,500		1,511,500	11.87
計		1,511,500		1,511,500	11.87

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社を有してないため、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,541,883	1,114,292
受取手形・完成工事未収入金	1,687,762	2,212,452
未成工事支出金	14,971	45,744
その他	147,747	179,088
流動資産合計	3,392,364	3,551,577
固定資産		
有形固定資産	64,881	60,756
無形固定資産	11,557	10,030
投資その他の資産	300,057	293,112
固定資産合計	376,496	363,899
資産合計	3,768,861	3,915,476
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金	711,012	1,101,939
短期借入金	100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	121,884	96,880
未払法人税等	196,902	58,327
賞与引当金	182,274	191,598
工事損失引当金	7,134	26,386
その他	198,348	177,145
流動負債合計	1,517,557	1,652,278
固定負債		
長期借入金	80,030	43,034
退職給付引当金	171,842	183,594
役員退職慰労引当金	181,593	187,201
固定負債合計	433,466	413,830
負債合計	1,951,023	2,066,109
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	534,192	534,192
資本剰余金	341,239	342,793
利益剰余金	1,129,894	1,156,555
自己株式	207,403	205,363
株主資本合計	1,797,923	1,828,177
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	385	1,730
評価・換算差額等合計	385	1,730
新株予約権	20,299	19,458
純資産合計	1,817,837	1,849,367
負債純資産合計	3,768,861	3,915,476

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	3,599,584	3,665,017
売上原価	2,896,150	2,959,588
売上総利益	703,434	705,428
販売費及び一般管理費	1 459,167	1 531,031
営業利益	244,266	174,397
営業外収益		
受取利息	222	139
新株予約権戻入益	2,682	21
未払配当金除斥益	318	319
その他	703	-
営業外収益合計	3,927	481
営業外費用		
支払利息	1,766	1,035
売上債権売却損	41,982	19,590
投資事業組合投資損失	606	7,006
営業外費用合計	44,356	27,632
経常利益	203,837	147,245
税引前四半期純利益	203,837	147,245
法人税等	77,159	53,393
四半期純利益	126,678	93,852

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	203,837	147,245
減価償却費	10,596	10,611
賞与引当金の増減額(は減少)	14,011	9,323
受取利息及び受取配当金	222	139
支払利息	1,766	1,035
売上債権の増減額(は増加)	60,778	524,690
未成工事支出金の増減額(は増加)	6,227	30,772
仕入債務の増減額(は減少)	172,160	390,927
未成工事受入金の増減額(は減少)	7,806	6,665
その他	44,648	1,868
小計	59,925	1,256
利息及び配当金の受取額	120	37
利息の支払額	1,670	1,016
法人税等の支払額	50,770	190,994
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,605	193,229
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	7,442	4,958
無形固定資産の取得による支出	5,957	-
貸付けによる支出	300	-
貸付金の回収による収入	240	270
投資有価証券の償還による収入	-	1,700
その他	150	6,049
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,309	9,038
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	100,000
長期借入金の返済による支出	64,084	62,000
株式の発行による収入	-	2,775
配当金の支払額	55,110	66,097
財務活動によるキャッシュ・フロー	219,194	225,322
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	224,899	427,590
現金及び現金同等物の期首残高	1,553,939	1,541,883
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,329,039	1 1,114,292

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
役員報酬	38,354千円	39,554千円
従業員給与	201,528千円	232,372千円
賞与引当金繰入額	39,218千円	64,294千円
役員退職慰労引当金繰入額	4,973千円	5,608千円
法定福利費	33,376千円	38,533千円
支払手数料	28,431千円	29,312千円
消耗品費	20,806千円	20,437千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	1,329,039千円	1,114,292千円
現金及び現金同等物	1,329,039千円	1,114,292千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	55,957	5.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	67,191	6.0	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	オフィス事業	CM事業	CREM事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,271,951	936,320	391,311	3,599,584
セグメント間の内部売上高又は振替高				
計	2,271,951	936,320	391,311	3,599,584
セグメント利益	180,123	57,234	6,908	244,266

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	オフィス事業	CM事業	CREM事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,244,882	826,970	593,164	3,665,017
セグメント間の内部売上高又は振替高				
計	2,244,882	826,970	593,164	3,665,017
セグメント利益又は損失( )	151,728	536	23,205	174,397

(注)セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	11円32銭	8円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	126,678	93,852
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	126,678	93,852
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,191	11,212
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	11円32銭	8円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)	3	101
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月11日

明豊ファシリティワークス株式会社

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	森	岡	健	二	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	山	村	浩	太	郎
指定社員 業務執行社員	公認会計士	新	藤	弘	一	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている明豊ファシリティワークス株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第35期事業年度の第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、明豊ファシリティワークス株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。